

SUMMARY

No031320

現在起きていることは 2008 年 9 月に発生した”リーマンショック“以来の大きな”ブラフ“(ここでは”RSC“[=Reverse Structural Change]ではなく敢えて”ブラフ“と表示します。)だと感じています。このゲームに”相手“がいと仮定すると構図がイメージできます。相手はとんでもない”ブラフ“によってゲームから私たちを撤退させようと仕組んでいます。すべてが仕組まれている・・・そんな印象を受けるゲームの構図が頭に浮かんできます。

“リーマンショック当時のことは今でも鮮明に憶えています。私はその年の 7 月にロンドンからニューヨークに移りチーム(一緒にやる仲間は既に決まっていた。)を結成するとすぐに Number Operation のビジネスに取り掛かりました。意気揚々としてスタートしたビジネスが早くも出鼻を挫かれると「こんなはずではなかった。」、「解明した数学理論に何か問題があるのか?このままやっていけるのか?」と思いました。私も“ブラフ”にひっかかり冷静さを欠いていたようでした。

その時の仲間(チームのメンバー)との会話をまだ昨日のここのように憶えています。ニューヨークマンハッタンのミッドタウンに 1945 年に建てられたという古いアパートメント(日本のマンションを英語では”apartment house”と言います。)のpenthouse(最上階)の一室での会話です:(皮肉と言ったらいいのか、同アパートメントは“リーマンショック”の主演のリーマンブラザーズの本社ビルから徒歩5分のところにありました。)

“Sorry!”(「すまない。」) —— 私
“Sorry about what!?”(「何がすまないんだ。?」) —— 仲間の一人
“About what’s happening now. This could change your life for the worse.”(「今起きていることについてだ。これは君たちの人生を悪い方向に変えてしまう可能性がある。」) —— 私
“What the hell are you talking about!?”(「一体何の話だ?」) —— 仲間
“That’s why we are here being with you.”(「だから我々はここにいる、君の味方だ。」)・・・仲間
“Your theory is impeccable!”(「君の理論は申し分ない。」) —— 仲間
“It’s a privilege being with you guys.”(「君たちと一緒にいるのは特権だ。」) —— 私
“Let’s make a game plan!”(「ゲームプランを立てよう!」)・・・全員

(“It’s a privilege”は「光荣だ。」の意味ですが「特権だ。」と訳しました。今では彼らと一緒にやれたことは私の“特権”だったと思っています。

ここから私のチームの快進撃がスタートしました。Number Operation の数値/数値構造やバリューチェーンの構造は当時まだ開発されたばかりでデータの蓄積も全くありませんでした。私たちが拠り所としたのは数学的思考だけでした。与えられた数字の合理性に基づいて思考しアクションをとること、それに徹しました。

そうしているうちにマトリックスの奥に隠れた数値が浮き彫りになり、そして、バリューチェーンの数字との関連性が見えてきました。

バリューチェーンの中にも多くの隠れた数字(情報)が潜んでいました。

頼れるのは数学の合理性
← 何をあてはめることだけでいい。
← 今の皆んなの新ステージは VC に物足りず。
あすおしく取らねばならぬ ← VC の数学は元々興味深い可。